

平成27年度 第1回新宿区文化芸術振興会議（第3期） 議事要旨

■開催日時 平成27年6月25日 午前10時から午前12時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎5階 大会議室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 乗松好美 松井千輝 根本晴美 大野順二
大和滋 市川治郎 舟橋香樹（欠席 原口秀夫）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く。)

事務局 加賀美地域文化部長 橋本文化観光課長 原文化観光係長 土肥主任

■議事の進行

1 新規委員の委嘱

(1) 事務局が新規委員の紹介を行った後、吉住区長が市川委員に委嘱状を交付した。

*任期：平成28年9月8日まで（他の委員の残存任期と同様）

(2) 新規委員である市川委員から挨拶があった。

2 区長あいさつ

吉住区長が、会議の開催に先立ち、挨拶を述べた。

<区長あいさつ要旨>

- ・第1期委員の提言に基づいて実現した新宿フィールドミュージアムは、今年で5回目の開催となり、毎年確実に規模を拡大し、内容も充実させており、新宿の秋を彩るイベントとして定着している。
- ・新宿は非常に多彩な魅力を備えた都市で、新宿の観光という視点で考えると、文化芸術は来街者にとって非常に大きな魅力となる。特に、日本の伝統芸能は、外国人の来街者に最も関心の高い観光資源の一つである。
- ・新宿区では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機と捉え、文化、観光、都市基盤整備、ユニバーサルデザインなどの施策を総合的に推進し、基本政策として掲げる「賑わい都市 新宿の創造」の実現に向け、国際観光都市新宿としてのブランド力の向上を図る取り組みを進めている。
- ・オリンピック憲章では、大会期間中の文化プログラムの開催も定めており、メイン会場となる新国立競技場のある新宿区としては、世界中から集まる人々に、新宿ならではの魅力ある文化プログラムを提供していきたい。そのため、会議の各委員には、是非これからも力を貸していただきたい。

(区長 退席)

3 開会

(1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。

(2) 本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)から(3)を一括して審議することを確認した。

4 議事（要旨）

（１）前回の会議の内容について

資料１－１及び資料１－２に基づき、前回来議（平成２７年３月２０日）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

（２）文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて

資料２－１及び資料２－２に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

（３）調査審議事項「東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた新宿区の文化芸術振興」について

資料３及び資料４に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

（４）意見交換

【以降、意見交換】

- 新宿区内には、東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館だけでなく、佐藤美術館など美術館が色々とあり、今後の連携を考えると美術分野で１つのコアができる。また、歌舞伎町も含め新宿には映画館の集積があり、完成を予定している「漱石山房」を始めとした文化・文化財の集積がある。さらに、新宿の資産である、新宿文化センター、矢来能楽堂、末廣亭、宮城道雄記念館と、周年事業がこれからの何年間に予定される。つまり、コアとなるものが新宿区の地域の中に分野ごとにある。
- フィールドミュージアムは、２か月間のイベントと事業的に捉えてきたが、今後は、新宿の文化資源の核となるものを明確にして、議論を育てていく方向が良い。
- フィールドミュージアムを、広げる、通年化することによって、独自事業というよりも、文化資源を背景とした新宿の文化を象徴的に、全国、世界に発信する役割になるのではないか。
- クリエイターズフェスタや映画が今後どのように育っていくかもあるが、実演芸術といった今まで取り組んできたもののコアについても、上手にまとめていくと良い。
- 美術、文化、舞台芸術、音楽、様々なジャンルに関する集積があり、文化センターを始めとしたたくさんの施設の周年が続くため、この機会に何か１つ事業を立ち上げ、新宿フィールドミュージアムの中に位置づけ、広がりを持たせれば、新宿の特色というイメージになり、人々が親しみやすくなる。
- 文化芸術は、かつては、政策的には非常に弱い、守っていかないといけない前提で動いてきたものだったが、今は、経済が文化芸術への投資によって活性化していくというパラダイム・シフトが議論されている。
- オーストラリアの経済学者が、科学技術に企業が投資するのと同じように、文化芸術やアートに対しても投資をすることが必要、つまり、アートも科学も社会の影響を及ぼすための新しいアイデアを作り出すものだという意味では全く同じだと述べている。
- オリンピック憲章のように、フィールドミュージアム憲章というような考え方として提起、発信できないか。
- 新宿フィールドミュージアムをまちのイメージとして定着させることを、区の方針、大き

な考え方として出していけば、個別、分散化しているいろいろな文化プログラムをまとめたいか。

- 2020年の東京オリンピック開催以降に、新宿区が文化芸術を中心としてどういう状態でありたいかのゴールイメージを作り、2020年の段階では何が行われるか、2020年までの1年1年にどういったことを実現していけばよいか、細かく目標設定をしながら進めていくことができれば非常に良い。
- 国立新美術館の「漫画*アニメ*ゲーム展」では、ネットを使った参加型のゲームや、ゲーム自体が地域にフォーカスしてその地域にまつわる物語が展開するようなものを展示していた。都市や地域にフォーカスした参加型のゲームに、フィールドミュージアムという素材を使ったら面白いのではないか。
- 映画や文学、サブカルチャー的なものも含めて、フィールドミュージアムの中に取り入れていくと活性化する手段になるのではないか。
- 同じ「けんしょう」でも別の褒め称える意味の「顕彰」についても、フィールドミュージアムで考えて良いのではないか。例えば、奈良の万葉文化館では、「万葉集」を題材にした「万葉こども賞コンクール」を実施しており、フィールドミュージアムでも、同じように新宿なり、文化的なテーマでのコンクールを行うことで、フィールドミュージアムを盛り上げる方法もできるのではないか。
- 芸術的なイベントや地域の取り組みが国内で様々されているが、新宿区は、過疎のまちではないので、過疎のまちが実施するようなテーマの芸術文化の振興イベントで人を集める必要はないのではないか。
- 新宿区は、自由と経済的なもの、芸術家が集まる豊かなものがあるから日本国内だけではなく外国からも大勢の方たちが集まってくる、まるでパリのようなところで、当然人が集まる区なので、そういった形での芸術発信の仕方が良い。
- フィールドミュージアムはちょうど5年なので、いろいろな内容を取捨選択して、新宿らしいものに絞り込んでいく時期なのではないか。
- かつて漫画はあまり美術の中では注目されていなかったが、最近では世界中の若者が集まってくるが、教育の立場からは、生徒の健全育成を良く考えて取り入れないといけないと思う。新宿区の、やなせたかし先生や赤塚不二夫先生は、漫画の王道で、様々なダークな部分に踏み込まなくても本当の意味で漫画をしっかりと訴えられる大家がいたということは、新宿区の一つの大きな価値ではないか。
- 総合芸術高校には、プロの生徒がいるわけではないが、1年生の途中ぐらいから、ヨーロッパに留学し、休学あるいは退学となり、本校を卒業できなくなるという問題を抱えているが、本当は全員本校を卒業させたい。新宿区の総合芸術高校を一つのふるさととして、そこから国際的に活躍する最高の芸術家に育っていく、原点は忘れさせたくない。これまでにフィールドミュージアムに参加しているが、今年度以降も是非何らかの形で協力をしていきたい。
- フィールドミュージアムが、拡大してきていることは素晴らしいが、新宿文化センターに関しては、ダンスと寄席のプログラムはあるのに、音楽のプログラムが一つも無く、オペラシティや新国立劇場にそういったプログラムが移っている。文化センターにも音楽に関係があるプログラムが必要ではないか。

- フィールドミュージアムの事務所を、10月から11月の間は、新宿文化センターの中に置くなど、新宿文化センターを中心に広げていくことを考える必要があるのではないか。
- 都内の会館やホールが、閉館、改修に向かっている。施設の老朽化や耐震構造の問題もあるが、今の傾向はコンサートホールで演奏するだけではなく、デジタルコンサート向けの録音技術やマイクといった設備をきっちり揃えないと、ニーズに対応できない。その中で、文化センターをどうしていくかが問題。
- 音楽を聞く形態も変わっており、演奏会場で生の音楽を楽しむだけではなく、音楽をダウンロードして楽しむことにも多少目を向けて行かないと対応しきれなくなっており、フィールドミュージアムの取り組みをネット上に配信することも、発信の手段として必要なのではないか。
- 新しい芸術や文化への接し方をIT技術等に結び付けていく問題は、これからの文化芸術に関する様々な取り組みで重要な要素になる。
- 文化センターのあり方、方向性については、区で行われている検討会と文化芸術振興会議とで情報をうまく共有し、対応していくべきではないか。
- 美術分野では、いろいろな美術館を巡るイベントがあるので、音楽でも、一つのテーマに絞って文化センター等を巡る企画があっても良いのではないか。
- 多文化であることを活かしつつ、新宿はこれがすごいのだと1つでも2つでも提案できるようにすると良い。何でもあるのではなく、新宿だからこそ、これだから新宿というものを考えて行かなくてはならない。
- ゲームから刀剣がブームになり、展示や美術館が混みあうという現象もあるので、ゲームの影響は非常に大きい。それをフィールドミュージアムに上手に取り入れられれば良い。
- 区や都、国が発信しているものには良いものがあるにも関わらず、60代、70代の方々は情報を得づらい状況にある。せっかく良い取り組みをしても、上手に発信できていないことは残念なので、どの年齢層に対しても発信の方法を検討する必要がある。
- 伝統芸能を大切にしていきたいという区長の話もあったが、歌舞伎や文楽といった取り組みもフィールドミュージアムに取り込んでいくと、新たな一面も開けるのではないか。
- 多文化、外国人の多さ、昼間の来街者などを上手に結びつける方法や場所を考えて、異なる文化を理解することは非常に重要で、新宿であればそういった方々へのイベントも持続的に提案していける。
- オリンピック憲章の根本原則には「スポーツを文化や教育に融合させる」ことが謳われているが、実際のところは文化と教育がまだ融合できていないと感じられる。2020年のゴールイメージとして、子どもや若者、障害がある方や高齢者、対象がどこになるのかを新宿区として打ち出すことも必要。
- 先のロンドンでも、たくさんのアートエデュケーションプログラムを通して子どもたちのコミュニケーション能力や協調性、主体性に成果が出ており、イコール企業が求める子どもたちの姿であるとメセナ協議会等で示されているが、学校現場では、そこが合致しておらず、是非合致させていただきたい。
- 必ずアートは成果を上げるので、SFM憲章のようなものに、子ども、若者、障害を持つ方や老人の方に向けた施策を謳っていただきたい。
- 今ある文化資源の見せ方として、徳島県が上手に広報しているので、新宿でも、見せ方の

工夫には手をかけて欲しい。

- 何百年も続いている祭りの文化、地域の祭りも新宿では豊かに繰り広げられており、地域の人も誇りを持って祭りに携わっている。
- 新宿でも、必ず見せ方でいろいろな人が足を運んでくれたり、世界中の人々に受け入れられたりするので、今あるものをうまく見せる見せ方、地域資源を発信できる見せ方が良いのではないか。
- SFM を通年化するには準備期間が必要なので、中心となって動く人が、取り組んでいる人たちや集まっている人たちをどう協働させコーディネートするかに明確なイメージを見せるとうまくいくのではないか。
- アートによる子供たちの可能性が上げられるような新宿区であってほしい。
- 区民として受けたい文化的なものは、楽しさや潤いや刺激、さらに驚きがあることではないか。
- 新宿フィールドミュージアムをオリンピックに向けて充実させていくことを考えた時に、こちらからもっと発信していく、仕掛けていく事業が必要なのではないか。
- 二子玉川ライズという商業施設のオープン時に、二子玉川駅からライズまで、移動しながらのパフォーマンスを行ったところ、そのイベントを見に来たわけではない人たちもうまくイベントに巻き込むことができたので、新宿フィールドミュージアムでも、イベントがあるから行くのではなく、たまたま来て何かが始まったというような驚きを区民と一緒に享受するような仕掛けも必要ではないか。
- 新宿文化センターのあり方は、非常にキーポイントになる。文化センターから発信する取り組みも必要ではないか。周りに魅力的な商業施設ができていたので、近隣を巻き込んで、子どもたちのためのイベントを、年に何本か文化センターから発信する取り組みをぜひ進めていきたい。
- 新宿区は他区とのかかわりについて、いろいろと考える必要がある。例えば、「まち歩きガイド」などの取り組みも、文化的には他区にまたがって案内した方が良い場合もあり、新宿区内と厳密に考えなくても良いのではないか。
- どんどん登録文化財の指定がされているが、そういった情報は、新宿区を紹介するときに是非活用してほしい。
- 美術教育、高校生が美術館に行くことは、非常に大事であるため、「子どもの生きる力と豊かな心を育む」取り組みの中に、高校生の美術鑑賞教室も考えて欲しい。
- 漱石山房のような、全国的にいろいろなところから人が集まるような文化財的なものは新宿区の特色にも関わるので、まだまだ作ってほしい。
- フィールドミュージアムを、オリンピックと結び付けようとする必要は無く、今までどおり取り組んでいったら良いのではないか。
- 平成 30 年度に、「明治維新 150 周年伝統文化再発見」とあるが、明治維新以降に興った新しい文化もいろいろあるので、そこに触れていくことも必要である。
- 新宿区にあるかつての文化人たちが住んでいた、あるいは縁のある場所は、やはり重要な記憶、文化遺産であるので、周知や活用イベントについて考えて行けると良い。
- 日本は縮退社会に入っており、10 年後には東京でも人口減少が始まり、これまで経験したことのないような高齢化が始まると予測される。これからが体力のある最後の 10 年間、

余力のある時に、どのようにこの後の文化芸術振興をしていくのか、文化芸術がその地域に役立っていくのかを考える最後のチャンスに近い。

- 新宿フィールドミュージアムは 5 年目なので、そろそろ少しアセスメントをかけても良い時期ではないか。公的団体としては、全てを満遍なく実施したいと思うが、戦略プランとして核になるもの、どこにターゲットを打ち出していくのが課題として上がってくる。
- 世界中からお客様を呼んで、それによって経済的に潤うことをターゲットとする活動があっても良いし、アマチュアや子供たちの将来への投資ということで、住民たちがある程度コスト負担する活動もあっても良い。そのバランスをどう取っていくかが考え所。フィールドミュージアムでも、それぞれの活動によってターゲットを変えていく必要がある。
- コスト負担を考えた時に、官と公と民とそれぞれ主体があるが、官の負担増については限定的と考えざるを得ないため、これからフィールドミュージアムをうまく持続的に発展させていくためには、共助者となる民間にも頑張ってもらわなければいけないし、アートへの投資を理解してもらわなければならない。また、関心を持った方々をうまく支援に参加していただくような仕組みづくりが必要。従って、活動を拡充することも大事だが、それを支える基盤をどのように構築していくのか考えなければならない。
- 文化センターについては、創設当初に求められた公共施設の役割とは異なるこれからの活動拠点としての新たな役割を付加していくことが必要。
- 文化にはお金がかかるが、それは逆に投資として、お金ではない、もっと優れたものとして戻ってくる、そういった文化への投資や文化政策について、民間の方を含めた様々な立場の方から知恵を出していただくシンポジウムのようなものを、新宿フィールドミュージアム期間のどこかで企画できないだろうか。
- ヴェニスのパビリオンも、もともとは限られた場所での展示会が主だったが、今では、まち全体に広まり、ゲリラ的なイベントも発生し、それをパビリオン事務局も認めるようになったので、フィールドミュージアムの一環としてサテライトのような何かを行うのであれば、フィールドミュージアムのロゴを使って、フィールドミュージアムに繋げていくことができないだろうか。
- いろいろな国の人々や、昼間新宿に来る人々、さらには子どもたちから高齢者までの様々な分野の人々をうまく繋げて、新宿フィールドミュージアムの中心にどのように新しい活力を作っていくかが、これからの課題になるのではないか。
- 今回の議論の整理、今後の進め方についての取りまとめを専門部会にお願いしたい。

5 事務連絡等

次回の会議は、取りまとめの進捗状況によるが 10 月頃を開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

6 閉会

会長のあいさつをもって、午前 12 時に閉会した。